

Uchiyama Construction Company

環境報告書 2005



株式会社 内山建設

会社概要

商号	株式会社内山建設
設立	昭和30年4月
代表者	代表取締役 内山雅仁
資本金	3900万円
事業内容	① 一般土木工事(道路、河川、橋梁、下水道、配水管) ② 緑化工事(法面、グラウンド、屋上緑化、庭園) ③ 構造物補修(ブロック構造物、橋梁) ④ 建築工事(畜産関連を軸とし、固有のノウハウ蓄積を展開中) ⑤ ISOコンサルタント
受注高	4億3千万円
売上高	4億6千万円
従業員数	22名

環境報告書

作成指針:環境省のガイドラインを元に
作成しました

対象年度:2004年度

(2004年7月1日~2005年6月30日)

対象範囲:株式会社内山建設の本店
有限会社エコロの本店

目次

会社概要	1
環境方針と理念	2
環境マネジメントシステム	3
工事施工の環境配慮	4
オフィスの環境配慮	6
資材倉庫の環境配慮	6
新規事業の取り組み	7

環境方針と理念

【環境方針】

(株)内山建設(有)エコロの環境方針は、施工・サービス・その他の全ての活動において、地球にやさしい生活環境を保持していくことを基本理念といたします。

現状の活動の中で、特に次の項目に対して改善に努めます。

- 1) 省エネルギー、省資源への配慮
- 2) 廃棄物の削減、廃棄物のリサイクル率の向上
- 3) グリーン購入の推進
- 4) 地域清掃活動の実施
- 5) 現在手がけている緑化関連事業の推進

上記の方針事項を実施するため、環境目的及び目標を設定いたします。

さらに具体的な行動に移すために『行動計画』を策定・実施し、その効果を定期的に評価・見直します。

これにより、継続的に見直しを図り、汚染防止に取組みながら、環境保全に努めます。

また、関連する環境の法規制及びその他の合意事項を遵守いたします。

環境に対して以上の方針をもって取組み、地域における快適な生活環境の実現に貢献いたします。

・ISO14001取得の経緯

建設業は仕事の内容が、人が生活する上での利便性を確保する為に行っています。しかし、一方で自然環境を破壊する一面も持っています。

その現状を認識した上で、少しでも自然環境を破壊しないように努力し、大きくは地球規模での環境、小さくは地域住民の生活環境を合せて考えていく事が今後の課題となると認識しました。

ISO14001を取得することで、全従業員が環境に対しての認識を深め、取組んでいくことにつながります。

この考えを元に1999年10月に審査登録したISO9001に引き続き、2000年4月からISO14001に取り組み、2000年11月に審査登録を行いました。

環境マネジメントシステム

ISO14001の対象となるのは、大きく分けて工事現場、資材倉庫、オフィス環境の3つになります。その中で環境影響を調査した結果、環境負荷や影響の大きな項目について、環境目的、環境目標を設定しました。

実施内容

環境目的	環境目標	対象業務		
		工事	資材	オフィス
地球資源消費の削減	ガソリン・軽油の燃費向上	○	○	
	水道・電気・ガスの使用量3%削減			○
産業廃棄物の リサイクル処理の向上	土砂の再利用箇所への80%搬出(林道工事除)	○		
	廃棄パソコンのリサイクル業者へ搬出			○
	廃棄家電のリサイクル業者へ搬出			○
リサイクル品の使用	土砂の再利用80%実施	○		
	エコマーク商品の5項目追加			○
	用紙の使用量の削減(購入、使用量の管理)			○
海、河川の汚染防止	環境に留意した作業油の使用	○		
地域内のゴミの撤廃	年4回の地域のゴミ清掃		○	
ひむかバーグの利用促進	年間施工高3千万	○		
法規制の遵守の徹底	コンクリート殻の再生処理業者への100%搬出	○		
	アスファルト殻の再生処理業者への100%搬出	○		
	伐採材の再生処理業者への100%搬出	○	○	
	鋼材の再生処理業者への100%搬出	○	○	
	再生クラッシュランの100%利用	○		
	再生アスファルトの100%利用	○		
	廃オイルの適正処理	○	○	
	危険物(軽油等)の貯蔵、取扱方法遵守	○	○	
	騒音・振動の規制数値の遵守	○		

工事施工の環境配慮

1. 地球資源消費の削減

ガソリン、軽油の燃費向上の為、アイドリングストップ、空吹かし禁止、急発進、急停止の禁止について社内の会議にて全社員へ教育を実施しています。又、現場内に「アイドリングストップ」の立看板を設置し、オペレータに注意を呼びかけています。

基本は少しでも運転席を離れる場合は、エンジンを切ることを指示しています。



工事施工箇所での看板の設置状況

2. 産業廃棄物のリサイクル処理の向上

土木工事で発生する産業廃棄物の中でコンクリート殻、アスファルト殻、伐採材は再生処理業者への搬出が基本になっており、100%搬出が前提になります。

又、土砂の搬出は、工事を受注した段階で決められています。発注者と協議しながら他工事への搬出等も検討しています。運搬距離の事もありますので100%再利用は出来ない状態です。

環境目標(法規制の遵守の徹底も含む)

土砂の再利用箇所への 80%搬出

コンクリート殻の再生処理業者への 100%搬出

アスファルト殻の再生処理業者への 100%搬出

伐採材の再生処理業者への 100%搬出

鋼材の再生処理業者への 100%搬出



工事施工で発生した伐根材の集積状況



伐根材を再生処理業者へ搬出

3. リサイクル品の使用

土砂の再利用は、購入土の利用を減らす為、たえず発注者と協議しながら他工事からの流用等を検討しています。又、建設資材として使用するクラッシュラン、アスファルト混合物は再生材利用が基本になっており、100%使用する事が前提になります。

環境目標(法規制の遵守の徹底も含む)

土砂の再利用 80%実施

再生クラッシュランの 100%利用

再生アスファルトの 100%利用

4. 海、河川の汚染防止

土木工事の中で、海、河川に関わる工事を行う場合、使用する重機、車両等の作業油を環境に留意したものを使用する事を心がけております。

余ったコンクリートの適正処理、ミキサー車の洗浄場所の確保、工事完了後に洗浄場所を撤去し、産業廃棄物に出す等の適正処理を実施しています。

工事施工により、河川へ影響がある場合は、沈殿地の設置、汚濁防止フェンスの設置等を発注者と打合せしながら施工を進めています。

写真は「平成 16 年度河添地区耕地災害復旧工事」です。



汚濁防止フェンスの設置状況

当社は、河川に関する工事を請け負うことも多いのですが、日ごろお世話になっている川に感謝の気持ちを含め、環境保護の助けとなるよう、110kg の鰻を放流しました。

環境目標(法規制の遵守の徹底も含む)

環境に留意した作業油の使用



5. その他の実施項目

- ① 廃オイルの適正処理
- ② 危険物(軽油等)の貯蔵、取扱方法遵守
- ③ 騒音、振動

騒音振動の測定を実施、低騒音、低振動型の重機の使用

現場の状況に応じて、騒音、振動について測定し、法規制が守られているか、確認を行っています。

- ④ 粉塵対策

散水作業、塩化カル散布により粉塵発生を抑制します。

道路沿いの住民の方に迷惑を掛けないように、事前に対策を実施しています。



現道の道路清掃状況

- ⑤ 動植物の保護対策

仮設物の設置は、出来るだけ動植物へ影響の少ない個所に設置する。

設置場所は事前に確認し、比較的動植物に影響の少ない場所を選んで設置しています。

撤去後は、元の状態に復旧する様に心掛けています。

オフィスの環境配慮

1. 地球資源消費の削減

水道…不要な使用を削減する為、使用後は蛇口をきちんと締める。

ガス…不要なガス使用、火災防止の為、使用していないときは元栓を締める。調理器具を燃費効率の良いものに切り替える。

電気…室内照明の退室時の消灯、不要なOA機器の電源切断、空調施設の適切な温度管理を行う。

2. 産業廃棄物のリサイクル処理の向上

パソコン、家電品等は、丁寧に扱い、修理できる場合は修理し、出来るだけ使用年数を増やす努力を行う。

使用できなくなったパソコン、家電品については、メーカー等のリサイクルを行う業者へ搬出を行う。

3. エコマーク商品の3項目追加

毎年、年間3品目以上、エコマーク商品に切り替えていく。現在はPPC用紙、名刺台紙、社名入り封筒等始めとして、事務用品を中心に切り替えを行っています。

4. 用紙の使用量の削減(購入、使用量の管理)

PPC用紙は購入量、使用量を管理し、年間通して、削減できたか確認を実施しています。

排紙(社外秘、カラーコピーは省く)は、裏面を再利用するように徹底しています。

PPC用紙は、再生紙を100%(顧客提出用の印刷物を省く)購入しています。

5. 一般ゴミの分別処理の徹底

本社、工事事務所から発生する一般ゴミについては、地域のゴミの分別状況に応じて、生ゴミ、紙、アルミ缶、スチール缶、ガラス等に分別し、搬出している。

ISO取得年度は、搬出量の調査を実施しました。

資材倉庫の環境配慮

1. 地球資源消費の削減

工事施工と同様に資材倉庫でもアイドリングストップ、空吹かし禁止、急発進、急停止の禁止を行っています。

2. 再生資源の利用の促進

工事現場で発生する少量の木くず、鉄くず、プラスチック類は、一度、本社に持ち帰ります。その為の仮置場を設置し、まとまった段階で産業廃棄物として搬出を行っています。

3. 地域内のゴミの撤廃

地域住民の方が少しでも綺麗な環境で生活できるように、定期的に清掃活動を実施しています。

活動の状況はホームページに掲載しています。

ホームページアドレス <http://www.uchiyama-const.com/>

日向市たいえい橋周辺のゴミ拾いを行っています。



新規事業の取り組み

環境に配慮した各種工法を選択し、新規事業として取り組んでいます。

1. ひむかバーク（産業廃棄物の低減、循環型工法）

このひむかバークは、法面緑化、グランド舗装を主体とした木材樹皮を利用した技術であり、林産問題の軽減を図るとともに、従来工法からの技術発展を担っています。

環境面として、森林業が抱えているスギ皮等の樹皮の処理問題を再利用することで、産業廃棄物を低減し、循環型の社会への対応を行っていきます。

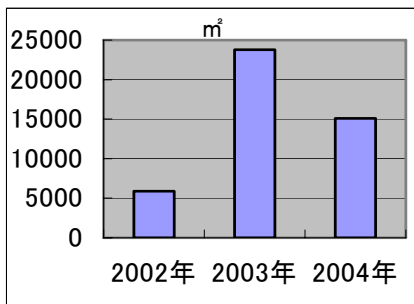
特に宮崎県は森林面積が76%を占めるため、内山建設は、地域循環ネットひむかのコア企業として、活動を行っている所です。

【内山建設の取組】

2004年に地域循環ネットひむかを設立。

宮崎県森林組合連合会や宮崎大学や九州大学、北九州市立大学の教授、技術士数名（環境部門、建設部門など）、国交省OBや会計検査院OB、民間設計コンサルタントなど17団体、個人を発足当初の構成研究メンバーとしています。

・宮崎県内で営業展開中。



施工前



施工後

2. 今後の展開

今後も研究開発を進め、次のような取組みを実施していきます。

① 法面緑化

植生技術(種子配合)と複合工法の提案とのセット販売

② 芝生広場

芝の生産販売…「ひむか芝(仮称)」

メンテナンスが省力化できる品種の開発、採用